

令和2年度 板橋区環境教育カリキュラム部会 活動方針及び進捗状況

令和2年11月16日(月)

1 本部会の目的

板橋区は平成20年2月にESD（持続可能な開発のための教育）の一環として、人間と自然と社会の関わりやつながりを通して、発達段階に応じた人格の形成や持続可能な社会の担い手の育成を目指した板橋区環境教育カリキュラム（平成20年2月）を策定した。その後、平成23年4月に板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムを策定し、平成25年4月に改訂、平成30年度には、平成29年3月に告示された新学習指導要領に基づいて内容を見直し、SDGs（持続可能な開発目標）への視点も含め改訂した。

本部会は、このカリキュラムに基づき、小・中学校での一貫したねらいをもつ環境教育を効果的に実施していくための条件整備の在り方について検討し、SDGsを踏まえた環境教育を推進することを目的としている。

■「ESD」とは？

「Education for Sustainable Development」の頭文字をとったもので、日本では「持続可能な開発のための教育」と訳されている。2002年のヨハネスブルグ・サミットにおいて、わが国が「持続可能な開発のための教育の10年」を提案し、国連総会で採択された。2005年からの10年を「国連ESDの10年」とし、学習指導要領にも「持続可能な社会」という言葉が盛り込まれている。

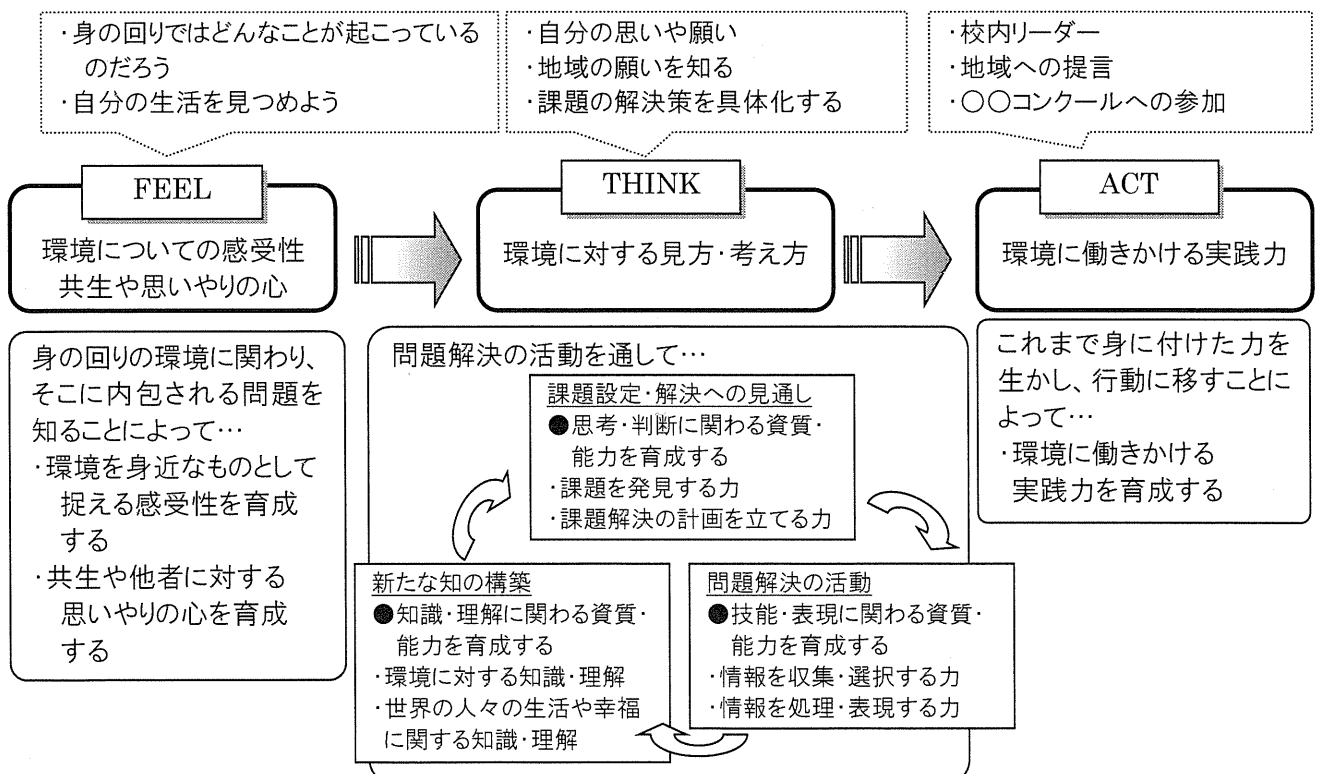
世界は、ひたすらに発展を目指す時代をすでに終え、未来に向けて誰もが快適でよりよい生活を送るためにはどうすればよいかを考え実践する段階に入っているとよい。この「未来に向けて」の教育が「ESD」であり、本区が策定した「板橋区環境教育カリキュラム」もこの「ESD」の考え方を具現化するものとなっている。板橋区の環境教育テキストが「未来へ」と名付けられた大きな理由である。

■「SDGs」とは？

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標である。

2 板橋区 保幼小中一貫環境教育カリキュラムについて

- 身の回りの環境と同時に地球規模の環境について考え、知識・理解を深めるとともに、よりよい環境づくりの主体としての技能や態度を身に付けさせる。
- 環境に関する学習を中心として、「持続可能な社会の構築」に資するとともに、他者に対する「思いやり」の気持ちを育み態度化を図る学習とする。
- 幼稚園から第9学年（中学校第3学年）までの11年間を見通した、保幼小中一貫型のカリキュラム構成とする。



○ 環境を捉える視点として、「循環」「多様性」など、6つの視点を設定。

循環	地球上では、様々な物質やエネルギーの循環がなされている。 人間の活動によって循環が阻害されることがあるが、環境負荷を減らし、循環型社会の実現を目指すことが大切である。
多様性	地球上の生物は、数十億年に及ぶ進化の過程を経て、様々な姿や生活様式を見せている。 生物多様性は、生態系の多様性、種の多様性、遺伝的多様性という三階層で捉えることができる。各階層における保全を考えることが必要である。
生態系	生物とそれを取り巻く土壌、水、大気、太陽光などの非生物的環境との間の相互関係からなる自然のシステムのことを生態系という。
共生	異なる種の生物が行動や生理活動において、互いに緊密な関係を保ちながら、生活している現象をいう。 人間間の関係のようにより広義に使われることもある。
有限性	再生産のできない燃料資源など、自然の資源は基本的に有限と考えられる。 これらの資源を次世代のために大切にしていける必要がある。
保全	自然に手を加えずに保存するのではなく、自然の状態を調べ、適切に手を加えながら管理することによって、積極的に自然を保護しようとする考え方が保全である。 自然と人間が持続可能な関係を保ちつつ生活していくことが必要である。

3 活動計画

(1) これまでの経過（平成19年度～令和元年度）

年 度	内 容
平成19年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 板橋区 環境教育カリキュラムの作成ーモデルプランの内容ー ①理念（大綱） ②各学年10～15時間程度の指導計画 ③学習活動例 ④学習シート（今後作成する副読本の骨子となるもの）
平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 板橋区 環境教育カリキュラムの検証 ① 小・中連携モデル校における実践検証 ② 成果と課題の分析（アンケート調査）③ 内容の改訂 ■ 板橋区 環境教育テキスト（小学校版）「未来へ1」「未来へ2」「未来へ 教師用指導書」の作成
平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ テキスト（小学校版）「未来へ」を活用した板橋区環境教育カリキュラムに基づく学習活動を全小学校で実施 ■ 板橋区 環境教育テキスト（中学校版）「未来へ3」「未来へ 教師用指導書」の作成
平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 板橋区 環境教育カリキュラムを区立小・中学校において全校実施 ■ 板橋区 環境教育テキスト「未来へ3」（中学校版）の配付 ■ 幼稚園から小学校第2学年までのカリキュラム検討、保幼小中一貫型カリキュラムの作成
平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 板橋区環境教育プログラム部会との連絡協議会への参加 ■ 板橋区 環境教育カリキュラム及びテキスト「未来へ」を活用した実践授業（全4回） ■ 総合的な学習の時間における、テキスト「未来へ」活用の位置付け
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 板橋区 環境教育カリキュラムの実践授業と検討
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 板橋区 環境教育カリキュラムの実践授業と検討（継続） ■ 環境教育テキスト「未来へ」の全面改訂に向けての内容検討
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境教育テキスト「未来へ」の全面改訂 ■ 環境教育全体計画（例）の作成

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境教育年間指導計画（例）の作成 ■ 板橋区 環境教育カリキュラム及び改訂版テキスト「未来へ」を活用した実践授業（全3回）
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全学校園において環境教育全体計画と年間指導計画（幼稚園を除く）を作成 ■ 全学校園において環境教育全体計画及び年間指導計画（幼稚園を除く）に基づいた環境教育の実施 ■ 板橋区 環境教育カリキュラム及び改訂版テキスト「未来へ」を活用した実践授業（全5回）
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全学校園において環境教育全体計画と年間指導計画（幼稚園を除く）を作成 ■ 全学校園において環境教育全体計画及び年間指導計画（幼稚園を除く）に基づいた各教科で環境教育の実施 ■ 板橋区 環境教育カリキュラム及び改訂版テキスト「未来へ」を活用した実践授業（全4回）
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全学校園において環境教育全体計画と年間指導計画（幼稚園を除く）を作成 ■ 全学校園において環境教育全体計画及び年間指導計画（幼稚園を除く）に基づいた各教科で環境教育の実施 ■ 板橋区 環境教育カリキュラム及び改訂版テキスト「未来へ」を活用した実践授業（全3回） ■ 「板橋区 保幼小中一貫環境教育カリキュラム」の見直し ■ 改訂版テキスト「未来へ」一部改訂
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 板橋区環境教育カリキュラムの改善及び普及、カリキュラムに基づいた授業実践 ■ 新しい学習指導要領の策定に伴い、E S D、S D G s の視点を取り入れた、系統的なカリキュラムの作成 ・ 指導案に、教科名、環境教育テキスト「未来へ」との対応、S D G s との関連を明記 ・ 「板橋区 保幼小中一貫環境教育カリキュラム」発行（平成31年4月） ■ ユネスコスクールの活動についての情報共有

（2）「いたばし学び支援プラン2021」における位置付け

重点施策2：豊かな人間性の育成

（2）環境教育の推進

板橋区では、環境を単に自然の面だけで捉えて教材化するのではなく、人間と自然と社会の「関わり」や「つながり」を通して、発達段階に応じた人格の形成や持続可能な社会の担い手の育成を目指すといったE S Dの視点を取り入れた「板橋区環境教育推進プラン2025」が平成27年度に策定されました。

効果的な環境教育を進めていくために、「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」に基づいて作成されたテキスト「未来へ」は平成27年度に改訂し、各学校で総合的な学習の時間や各教科等で活用しています。

今後は、エコポリスセンターや地域の外部人材等を活用して、保育園・幼稚園・小学校・中学校で一貫した環境教育の充実を図っていきます。また、ユネスコスクールに加盟申請した小学校及び中学校を、E S Dの推進拠点として位置付け、環境に関する優れた資質・能力をもつ「子ども環境大使」を育成していきます。

目標	平成30年度	令和元年度	令和2年度
エコポリスセンターや地域の外部人材等を活用し、「環境についての感受性、共生や思いやりの心」「環境に対する見方・考え方」「環境に働きかける実践力」を発達段階に応じて養う。	①ユネスコスクールに認定された小学校2校により環境教育を推進する。 ②中学校環境教育重点モデル校を1校指定し、環境教育の推進を図る。 ③小学校子ども環境大使による、エコポリスセンターでの環境に関する発表等を実施する。	①ユネスコスクール加盟申請校を増やし、環境教育を推進する。 ②板橋区環境教育カリキュラムに基づき、学校園や地域の特色を活かした実践授業を提案する。 ③子ども環境大使による、エコポリスセンターでの環境に関する発表等を実施する。	①ユネスコスクール加盟申請校（現在、加盟校2校、申請校5校）を増やし、環境教育を推進する。 ②板橋区環境教育カリキュラムに基づき、学校園や地域の特色を生かした実践授業（全5回）を提案する。 ③子ども環境大使による、エコポリスセンターでの環境に関する発表等を実施する。 (今年度はWEB上での開催を予定。)

(3) 令和2年度の活動スケジュール

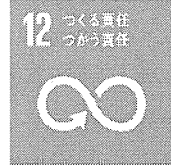
日程	活動内容	
令和2年7月	令和2年度 板橋区環境教育カリキュラム部会委員の推薦依頼及び決定	
令和2年 8月3日	第1回 部会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動方針の確認 ・テキスト「未来へ」を活用した実践授業の内容及び今年度日程の検討
令和2年 9月2日 ～ 令和3年 1月25日 (予定)	第2回 部会 ～ 第7回 部会	<ul style="list-style-type: none"> ●環境教育カリキュラム活動事例検討及び実践授業 ・テキスト「未来へ」を活用した授業検討及び実践授業 ・学校や地域の特色を踏まえた指導計画の検討 ・環境について児童生徒が自分の事として捉える指導の工夫の検討 ・児童生徒の変容や成果検証についての検討
令和3年2月	第8回 部会	●実践事例の原稿校正
令和3年3月		●事例完成

4 板橋区環境教育カリキュラム部会の構成

担当	所属	職名	氏名	学年 教科
部会長	上板橋第一中学校	校長	長岡 直行	
部員	上板橋第一中学校	教諭	山田 祥吾	家庭科
	高島第一中学校	教諭	徳田 千了	理科
	下赤塚小学校	主幹教諭	桑島 孝博	5年 (社会科)
	緑小学校	教諭	小松 拓野	6年 (理科)
	新河岸幼稚園	教諭	阿部 菜々	4歳児担当 桃組
事務局	板橋区教育委員会 板橋区教育委員会 板橋区教育委員会	指導室長 統括指導主事 指導主事	門野 吉保 山藤 知子 西山 英樹	

<評価・意思決定期> 実践事例 未来へ3 2・4・11
 中学校 第9学年 家庭科
 「生活と環境の関わり」

SDGsとの関わり



1 単元のねらい

- (1) 資料及び今までの学習内容を踏まえ自分の生活を顧みることができる。
- (2) 生活の中の課題を見付け、その改善策を考えることができる。

2 単元の評価規準

知識・技能

- (1) 食・衣・住・消費生活を取り巻く様々な問題について理解している。
- (2) 資料やこれまでの学習内容を活用し、自身の生活の課題を見いだす、解決策を考えることができる。

思考・判断・表現

- (1) 各分野の学習内容と環境との関わりを適切に捉えることができる。
- (2) 生活の課題の原因と解決策を考察し、適切に表現できる。

主体的に学習に取り組む態度

- (1) 自分の生活を取り巻く様々な課題について考察し、その解決策を実践しようとしている。

3 環境教育の視点（単元を通して身に付けさせたい資質・能力・態度）

F E E L	【環境についての感受性・ 共生や思いやりの心】	・学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。
T H I N K	【環境に対する見方・ 考え方】	
	【環境に対する思考・判断・表現】	・環境問題とその原因を自分の生活と結び付け、課題を発見し、自分ができる課題の改善・解決方法について考察することができる。
	【問題解決に必要な技能】	・自分の生活と環境を照らし、課題を見付ける事ができる。
	【環境に対する知識・理解】	・自身の生活の現状（例えば、食分野では食品の多くを輸入に頼っている、など）や様々な指標・取組に関する基本的知識を身に付けている。
A C T	【環境に働きかける実践力】	・発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。

4 環境を捉える視点

循環	有限性
<p>現在、大量生産・大量流通・大量消費・大量廃棄の時代と言われており、限りある資源を活用し、循環させることで環境負荷を減らすことで持続可能な社会の目指すことが大切である。そうした社会の形成者として自立していくための倫理観、思考・判断力、行動力を育む。</p>	<p>化石燃料など有限の資源がどのような形で消費され、自分たちの生活のどのような場面でその恩恵を受けているのかを知ること、それらを未来へ残すことの大切さを学ぶ。</p> <p>また、それらを消費することは環境にどのような影響を与えるのかについても学ぶことで資源の有限性について多角的に学びを深める。</p>

5 指導計画【全5時間】

時	○学習内容 ・学習活動 <<未来へ>>	◆評価規準（評価方法） □【環境教育の視点】
	環境を捉える視点：循環・有限性	
F E E L	<p>① ○よりよい食生活を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの食生活を取り巻く様々な問題とそれを計る指標や取組について理解し、環境問題について関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 自身の生活の現状（例えば食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取組に関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>
F E E L	<p>② ○よりよい衣生活を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服も限りある資源から作られていることや手入れと環境の関わりなどを理解する。 ・一般的な3Rに加え、ファッションにおける3Rなどについて理解し衣生活と環境の関わりについて関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 自身の生活の現状（例えば、食分野では食品の多くを輸入に頼っている など）や様々な指標・取組に関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>
F E E L	<p>③ ○よりよい住生活を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適に住まうための工夫について理解し、住生活と環境に関わりについて関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気付き、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 自身の生活の現状（例えば、食分野では食品の多くを輸入に頼っている、など）や様々な指標・取組に関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>

F E E L	<p>④ ○よりよい消費生活を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚をもち、自身の消費行動と環境との関心をもつ。 	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 学習を通し、自身の生活が世界や地球全体の環境とも関わりがあることに気づき、生活と環境の関わりについて関心をもつことができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 ・自身の生活の現状（例えば、食分野では食品の多くを輸入に頼っている、など）や様々な指標・取組に関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p>
<div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 5px; display: inline-block;">環境を捉える視点：循環・有限性</div>		
T H I N K ・ A C T	<p>⑤ ○持続可能な社会を目指そう</p> <p>本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容を活用し、自分達の生活の課題を考察する。 ・持続可能な社会について理解する。 ・発見した課題の解決策を考え、自分達のこれからの生活の具体的な行動目標と行動計画を立てる。 	<p>□【環境に対する思考・判断・表現】 環境問題とその原因を自分の生活と結びつけ課題を発見し、自分ができる課題の改善・解決方法について考察することができる。</p> <p>◆思考・判断・表現（2）（観察、ワークシート）</p> <p>□【問題解決に必要な技能】 自分の生活と環境を照らし、課題を見付ける事ができる。</p> <p>◆知識・技能（2）（ワークシート）</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 自身の生活の現状（例えば、食分野では食品の多くを輸入に頼っている、など）や様々な指標・取組に関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>◆知識・技能（1）（観察、ワークシート）</p> <p>□【環境に働きかける実践力】 発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度（1）</p>

6 「生活と環境の関わり」実践本時案（ 5 / 5 ）

(1) 本時の目標

これまでに学習した食・衣・住・消費分野それぞれが抱える問題や取組などを基に、自分の生活を振り返ることで課題を見だし、それらに対する解決策や行動目標、行動計画を考えることで積極的に環境問題へ取り組む態度を身に付ける。

(2) 本時の展開

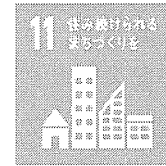
時	○学習内容・学習活動 ※予想される生徒の反応	◇指導上の留意点 《未来へ》	◆評価基準（評価方法） □【環境教育の視点】
10分	<p>○班に分かれ、担当の分野の今までの学習で環境に関わる部分の内容を確認する。</p> <p>○本時までの学習の中で環境に関わる内容には、どのようなものがあったか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードをワークシートに記入する。 <p>○本時の到達目標を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにねらいを記入する。 	<p>◇ワークシートを配付する。</p> <p>◇食・衣・住・消費生活分野の内容の中で環境に関わる部分を確認し、生活と環境が深く関わっていることに気付かせる。</p> <p>《未来へ3 P4・5・7》</p>	
<p>【ねらい】 持続可能な社会を目指し、自分の生活で見直す点を記述し、発表しよう。</p>			
30分	<p>○持続可能な社会について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドで内容を確認しながら、持続可能な社会に向けた取組をワークシートに記入する。 ①低炭素社会 ②自然共生社会 ③循環型社会 <p>○学習した内容を活用し、自分達の生活の課題を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班に分かれ、冒頭で確認した既習内容を基に自分たちの生活を振り返り、担当分野の課題をワークシートに書き出す。 <p>○発見した課題を改善するための方策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見した課題に対して自分達が実践することができる解決策を考え、まとめる。(ワークシート) 	<p>◇「持続可能な社会をなぜ目指すのか」を生徒と確認した上で、実現に向けた取組についての説明を行う。</p> <p>《未来へ3 P16》</p> <p>◇「未来へ3」や資料、教科書を参考に自分の生活の振り返りや解決策等を考えるよう、生徒の様子に合わせて補助発問を行い、考えを促す。</p>	<p>◆知識・技能（2）</p> <p>自身の生活から適切に課題を見出すことができている。(ワークシート)</p> <p>□【問題解決に必要な技能】</p> <p>自分の生活と環境を照らし、課題を見付ける事ができる。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度（1）</p> <p>環境について考え、自身の行動を改善しようと意欲的に考えている。</p> <p>□【環境に働きかける実践力】</p> <p>発見した自身の生活の課題を改善するための具体的な行動目標及び行動計画を立案し、実践的な行動につなげることができる。</p>

	<p>○課題と解決策の共有を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野の課題と解決策の発表を行う。 ・各分野の発表に対して、自分の考えをまとめる。 		
10分	<p>○まとめ・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体でまとめを確認する。 		
<p>【まとめ】自分たちの生活を見直せば、環境のためにできることは、身近な場面に数多くある。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を基に、今後、持続可能で具体的な自分の行動目標をそれぞれ考える。 ・環境についての学習を終えた自己評価を行う。 		

<認識・問題把握期> 実践事例 未来へ2 14

小学校 第6学年 理科・総合的な学習の時間
「自然災害と共に生きる私たち」

SDGsとの関わり



1 単元のねらい

日本における様々な自然災害について理解し、防災への意識を高めるとともに、災害による被害を抑える方法についてICT等を活用して調べ、発表し合う中で自分の考えをもち、主体的に問題解決しようとする態度を育てる。

2 単元の評価規準

知識・技能

- (1) 日本で過去に発生した様々な自然災害について、その仕組みやそれに対する防災の取組について理解している。
- (2) 防災のために自分自身にできることは何か理解している。

思考・判断・表現

- (1) 災害と防災について、他の教科等で学習したことと関連付けて考え、ICT等を活用して情報収集をし、分かりやすく表現している。
- (2) 防災のために自分自身にできることは何か考え、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

- (1) 日本で起こる自然災害について興味・関心をもって調べ、自分から意欲的に課題解決しようとしている。
- (2) 防災のために自分自身ができることを実践しようとしている。

3 環境教育の視点（単元を通して身に付けさせたい資質・能力・態度）

F E E L	【環境についての感受性・共生や思いやりの心】	・地球上で発生している自然災害について自分の生活と関連付けて捉え、興味・関心をもって関わることができる。
T H I N K	【環境に対する思考・判断・表現】	・地震や火山などの様々な自然災害により年々多くの人的被害や経済的被害が生じていることを認識し、問題として捉えている。
	【問題解決に必要な技能】	・目的を明確にし、ICT等を活用して世界で起きている自然災害について情報を収集し、自分の考えを筋道立てて表現している。
	【環境に対する知識・理解】	・世界中で発生している自然災害による被害や災害への対策について理解している。
A C T	【環境に働きかける実践力】	・自らも「未来に持続する社会」の一員であることを認識し、世界の災害について捉え直すとともに、自分の住む町の災害や防災やについて考えている。

4 環境を捉える視点

共生	保全
広義の共生という観点で、共に地球で生きる人間同士が協力していくべきであり、また、自然災害とも共に生きていくべきである。	不可避の自然災害に対し、手だてを講じないのでも、人の手で押さえ込むのでもなく、人間が持続して生活できるように、自然環境を管理することが必要である。

5 指導計画【全9時間】内理科「変わり続ける大地」4時間

時	○学習内容 ・学習活動 《未来へ》	◆評価規準（評価方法） □【環境教育の視点】	
環境を捉える視点：保全			
F E E L	理科 ① ②	<p>○世界と日本の火山と主な地震が起きた場所の図を見て、地震や火山の噴火について問題を見いだす。</p> <p>○地震や火山の噴火による大地の変化の様子について調べる。</p> <p>○地震と火山による大地の変化についてまとめる。</p> <p>○火山の恵みについて捉える。</p>	<p>◆知識・技能 土地は、火山の噴火や地震によって変化することを理解している。（観察、ノート）</p> <p>◆思考・判断・表現 土地の変化について予想や仮説を基に問題解決している。（観察、ノート）</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度 土地の変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしている（観察、ノート）</p>
	総合 ①	<p>○日本で過去に発生した自然災害について知る。《未来へ② 14》</p> <p>・地震、津波、火山の噴火、大雨、洪水土砂崩れ、猛暑、豪雪などについて知る。</p>	<p>□【環境についての感受性・共生や思いやりの心】 地球上で発生している自然災害について、他人事としてではなく自分にも起こりうるものとして捉えている。</p> <p>□【環境に対する思考・判断・表現】 様々な自然災害により人的被害や経済的被害が出ていることを問題として認識している。</p>
環境を捉える視点：共生			
T H I N K	総合 ② ③ ④	<p>○グループごとに、日本で発生した地震や火山、津波などの自然災害について、その原因や被害について調べる。 (日本だけでなく世界の災害でもよい。)</p> <p>○被害を減らすためにされていることについて、「被害を減らすための取り組み（減災）」や「被災後の支援」、「個人でできる防災」について調べる。</p> <p>○調べたことをパワーポイントにまとめ、発表の原稿を作る。</p>	<p>◆知識・理解①（観察、ノート）</p> <p>◆思考・判断・表現①（観察、ノート）</p> <p>◆主体的に取り組む態度①（観察、ノート）</p> <p>□【問題解決に必要な技能】 目的を明確にし、ICTを活用して災害について情報を収集し、自分の考えを表現している。</p> <p>□【環境に対する知識・理解】 世界中で発生している災害について、その原因やそれに対する対策・支援について理解している。</p>
	総合 ⑤（本時）	<p>○グループ同士で互いに発表し合い、質問を受けてパワーポイントを修正する。</p> <p>○互いの発表に前時までの観点が含まれているか確かめ合う。 《未来へ② 14》</p>	<p>◆主体的に取り組む態度①（観察、ノート）</p> <p>□【問題解決に必要な技能】 目的を明確にし、ICTを活用して災害についての情報を収集し、自分の考えを表現している。</p>

A C T	理 科 ③ ④	<p>○調べたことをグループごとに発表し、災害から身を守るために自分たちにできる事を考える。</p> <p>○自然災害と防災についてまとめる。</p>	<p>◆知識・理解②（観察、ノート）</p> <p>◆思考・判断・表現②（観察、ノート）</p> <p>◆主体的に取り組む態度②（観察、ノート）</p> <p>□【環境に働きかける実践力】</p> <p>自らも「未来に持続する社会」の一員であることを認識し、世界の災害などについて捉え直すとともに、自身にできる防災に努めている。</p>
-------------	------------------	---	--

6 「災害と共に生きる私たち」実践本時案（7／9時）

(1) 本時の目標

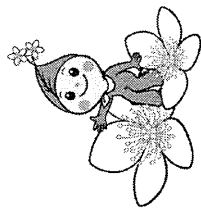
- ・グループ同士で発表し合い、資料が分かりやすくまとめられているかを確認する。
- ・発表資料を修正しながら、災害による被害を抑える方法について、考えや方法を伝え合う。

(2) 本時の展開

時	○学習内容・学習活動 ※予想される児童の反応	◇指導上の留意点 《未来へ》	◆評価規準（評価方法） □【環境教育の視点】（見取り）
5分	<p>○前時までの活動を振り返る。</p> <p>○本時のめあてを提示する。</p>		
<p>めあて：グループ同士で発表し合い、発表に向けた準備をしよう。</p>			
10分 20分	<p>○ペア・グループ同士で発表し合う。</p> <p>・聞く側は以下の点が含まれているか確かめる。(①～③は必須)</p> <p>①その災害がいつ、どこで起こった災害なのか。</p> <p>②災害の内容や、被害状況について。</p> <p>③その災害に備えるために自分たちにできる事は何か。</p> <p>④その後、被害を減らすためにどのような取り組みがなされているか。</p> <p>⑤被災後の支援にはどのようなものがあったか。</p> <p>・発表に対しての質問や、他にこのようなことを説明したらどうかといった助言をする。</p> <p>○相手からの質問や助言を基にパワーポイントを修正する。</p> <p>・さらに情報を調べてパワーポイントにまとめる。</p> <p>・パワーポイントを分かりやすく修正する。</p>	<p>◇聞く側は発表の間は、静かに聞くことを確認する。</p> <p>◇発表が各班2～3分以内となるよう声をかける。</p> <p>◇パワーポイントの作成の様子に応じて助言を行う。</p>	<p>◆主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①</p> <p>自分たちの発表だけでなく、他のグループの発表を真剣に聞き、協力して問題解決しようとしている。</p> <p>(観察・発言)</p> <p>□【問題解決に必要な技能】</p> <p>目的を明確にした上でICTを活用しながら情報収集し、発表をまとめている。</p> <p>(観察・発言)</p>
5分	<p>○次回の活動について伝える。</p> <p>○振り返りを書く。</p> <p>・振り返りの視点：お互いに発表し合って理解が深まったか</p>	<p>◇振り返りの視点について伝える。</p>	<p>◆主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①・②</p> <p>積極的に問題解決をし、防災について自分なりの考えを深めている。《未来へ② 14》</p> <p>(ノート)</p>

資料 6-3

令和2年度 板橋区環境教育カリキュラム部会 実践授業について



令和2年11月16日(月)

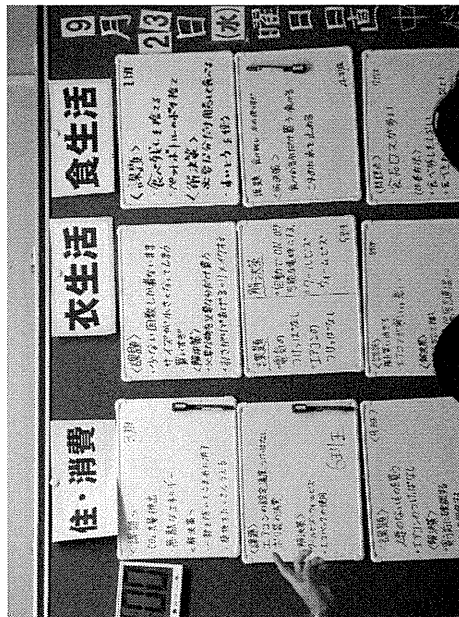
実践授業の報告

- 1 上板橋第一中学校 第9学年
家庭科
「生活と環境の関わり」
- 2 緑小学校 第6学年
理科・総合的な学習の時間
「自然災害と共に生きる私たち」

1 上板橋第一中学校 授業の様子



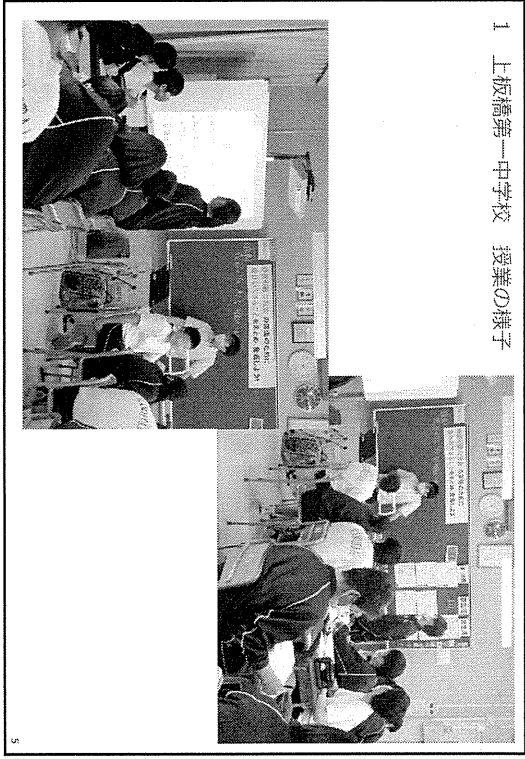
1 上板橋第一中学校 授業の様子



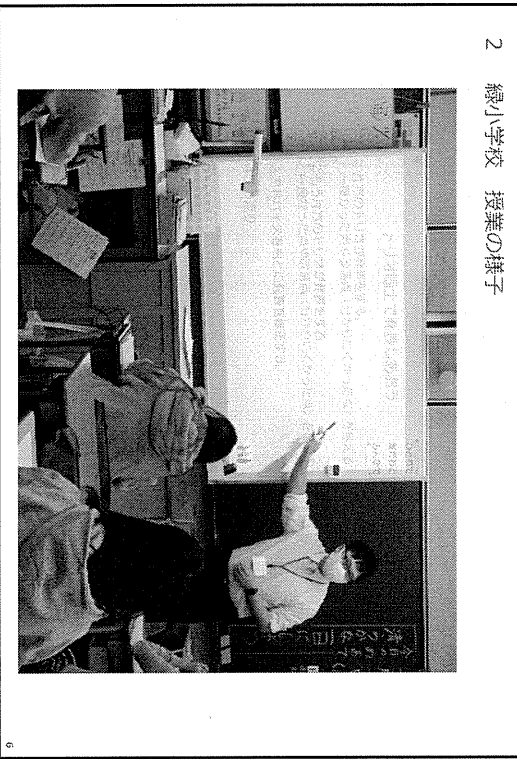
1 上板橋第一中学校 授業の様子



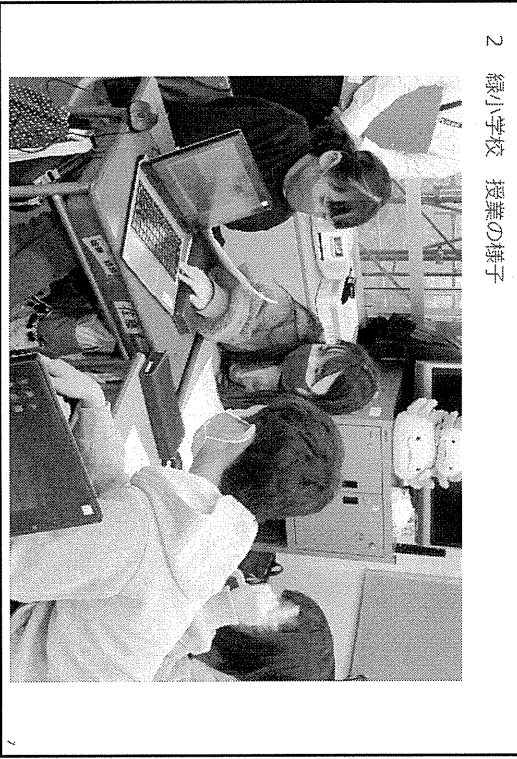
1 上板橋第一中学校 授業の様子



2 緑小学校 授業の様子



2 緑小学校 授業の様子

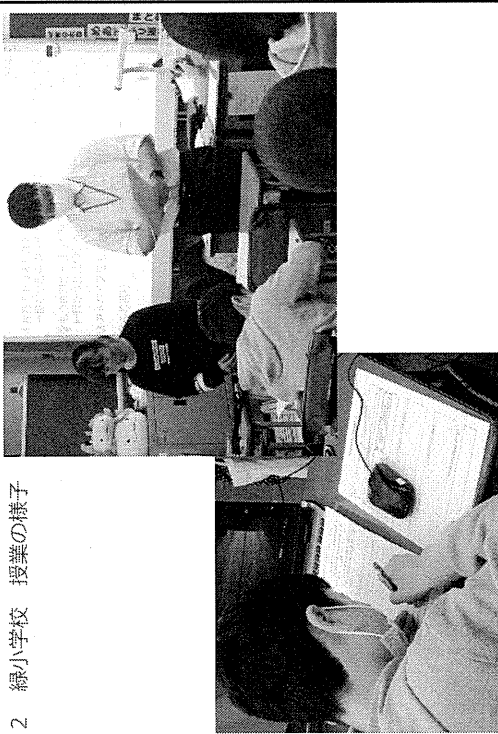


2 緑小学校 授業の様子



9

2 緑小学校 授業の様子



9

今後に向けて

自分の生活と結びつけて捉えさせる工夫

振り返りの内容の工夫

10